

# クールジャパンアワード2019受賞

清水山城館跡 / 大溝城跡

観光振興課 (25) 8040  
文化財課 (25) 8559

## 受賞の経緯

今回、滋賀銀行のご推薦により、栄誉あるクールジャパンアワードを受賞することができました。

滋賀銀行では、創立85周年記念イベントとして、「湖国を再発見する」をテーマに歴史や文化を大切にされている地域の方々と共に活動する〈地域への感謝活動〉に取り組んでおられ、「地域に埋もれた資源に光を当て、その魅力を県内外の多くの人に届けたい。」という思いと、「国内だけでなく国外にも発信す

滋賀銀行の地域への感謝活動  
(のろし駅伝参加)



べきである。」という熱意のもと、滋賀県の歴史遺産や伝統文化をクールジャパンアワードに推薦されました。その結果、5月10日に「近江湖西の山城と水城」という名称で、戦国時代

の山城である清水山城館跡と織豊時代の水城である大溝城跡が、外国人の方々に評価され、クールジャパンアワード2019に認定されました。5月27日には京都御苑において、高島市、滋賀銀行、そして清水山城館跡の保全と活用に取り組んでいる清水山城築クラブ、大溝地域のまちづくりに取り組んでいる大溝まちづくり協議会の皆さんと一緒に表彰式に出席し、認定書を受け取りました。

クールジャパンアワードに認定された作品は、ニューヨークや台湾の展示会場で紹介されています。今後、清水山城館跡と大溝城跡が世界に広く発信されることとなり、インバウンド誘客促進にも効果が期待される

## クールジャパンアワードとは…

クールジャパンアワードは、世界各国の外国人審査員により、外国人目線で客観的に「かっこいい」、「日本らしい」と認められたものだけをクールジャパンとして認定する制度です。

主催者は、一般社団法人クールジャパン協議会で、日本に埋もれている地域資源（モノ・ヒト・カルチャーなど）を発掘し、外国人審査員100人により評価が行われます。2015年から始まり、2年に1回開催され、今回で3回目を迎えます。これまで全国で44作品が認定されており、2019年は、推薦があった307作品の中から新たに53作品が認定されました。清水山城館跡と大溝城跡もそのうちの一つに名を連ねることになりました。



清水山城館跡除草・清掃作業

## 【山城】清水山城館跡

クールジャパンアワードに認定された清水山城館跡は、饗庭野台地に築かれた山城で、鎌倉時代から戦国時代にかけて高島郡中南部を支配した近江源氏佐々木氏の一族の城郭です。山頂から山腹にかけて、土塁や堀切などの防御施設や家臣団の屋敷跡が残っています。その規模は、約47ヘクタールもあります。

標高約210mに位置する山城の中心部からは、眼下に琵琶湖や安曇川流域一帯を見渡すことができ、ここからの眺めは圧巻です。

礎石建物復元画



中心部からは、常御殿と推定される南北約12m、東西約10mの礎石建物跡が見つかっています。瓦が出土していないことから、檜皮葺き建物と推測されています。また、滋賀県では珍しい畝状空堀群が築かれているほか、県下最大級の堀切や土塁など厳重な防御施設が残っています。山腹一帯には、土塁や道によって方形に区画された家臣団の屋敷跡が残っています。区画ごとに井戸跡があります。中でも西屋敷と呼ばれる地区は、中央に幅10mの大手道が築かれていて、この道に面して、屋敷地跡が連なり、当時のようすを今に伝えています。



このように防御施設や屋敷跡が良好な状態で残っている清水山城館跡は、戦国時代の有力豪族を知る上で重要な城郭であることから、平成16年に国の史跡に指定されました。

## 清水山城築クラブ

「清水山城築クラブ」は、里山にある清水山城館跡を未来に適切に継承するため、その価値を互いに学び合いながら、保全と活用を図ることを目的に活動され、今年で11年目を迎えられます。

「一人一人が主人公」、「仲間づくりをすすめる」、「学習2割、楽しみ8割」「地下遺構は傷めない」などを活動のコンセプトとして、継続性を念頭に発展性を視野に入れた取り組みを展開されています。

基本的な活動内容は、清水山城館跡での樹木の整理や下草刈りなどの保全活動ですが、間伐材を利用した椅子づくりや落ち葉を使った焼き芋づくりなど、さまざまな楽しみを取り入れています。

また、保全だけでなく、次世代を担う子どもたちに清水山城館跡を知ってもらうため、地元の小学



清水山城築クラブ活動のようす

校や中学校と連携して情報発信・普及活動を行うとともに、堀切など遺構を活用した体験イベントの開催や琵琶湖一周ののろし駅伝に参加するなど、活用事業に積極的に取り組んでいます。清水山城築クラブには、親子で活動に参加されている方も多く、クラブの活動目的である保全と次世代への継承という思いは、将来を担う子どもたちにも引き継がれています。

## 【水城】大溝城跡

清水山城館跡と併せてクールジャパンアワードに認定された大溝城跡は、選定名称の「近江湖西の山城と水城」のうちの「水城」を示す城跡です。

大溝城は、天正6年（1578年）に、天下統一を目指す織田信長が、琵琶湖掌握を目的として、

甥の信澄に造らせた城郭で、設計は智将として知られた明智光秀と伝えられています。隣接する内湖・乙女ヶ池の水を巧みに濠に取り込んだ水城としての構造は、琵琶湖周辺に築かれた安土城、長浜城、坂本城にも共通しますが、現在までその面影を実際に伝えるのは、この大溝城跡のみになります。

現在、城跡には、天守台の石垣が残され、その周辺からは天正期の軒丸瓦・軒平瓦が出土しています。また、近年は本丸部分の発掘調査が進み、本丸を囲む石垣や、本丸と二の丸を結ぶ土橋の遺構などが確認されています。大溝の水辺景観まちづくり協議会は、この貴重な城跡を守り、見学者に紹介するとともに、大溝城跡や乙女ヶ池をいかした地域づくりを進めています。



大溝城石垣



総門

## 大溝の水辺景観 まちづくり協議会

大溝城跡とその城下町が広がる一帯は、平成27年に「大溝の水辺景観」として、国の重要な文化的景観に選定されました。「大溝の水辺景観まちづくり協議会」は、地域住民の皆さんを中心として、景観や文化財をいかした地域の活性化を目指して設立されました。

現在では、「大溝まち並み案内処・総門」の運営や、水辺のガイドによる地域案内、空き家活用の提案など、幅広い活動に取り組み、大溝の地を訪れる来訪者に、さまざまなおもてなしを提供すると

もに、地域住民だからこそ可能なまちづくりを熱心に進めておられます。

水辺のガイド



大溝城跡の周辺草刈り作業

